

発行 日本金融・証券計量・工学学会 (JAFEE) The Japanese Association of Financial Econometrics & Engineering

編集責任 小暮 厚之 高山 俊則 中妻 照雄

銀行口座 さくら銀行国立(くにたち)支店 (普通) 6837615 口座名 ジャフィー

郵便口座 口座番号 00120-4-146874 口座名 ジャフィー

事務局 〒980-8576 宮城県仙台市川内 東北大学大学院経済学研究科 佃 良彦研究室

TEL 022-217-6302 (直通) FAX 022-217-6327 (学部共通) E-mail jafee@econ.tohoku.ac.jp

目次

1. 第13回ジャフィー大会のお知らせ
 2. 事務局の移動について
 3. Asia-Pacific Financial Markets 誌特別号への論文投稿のお願い
 4. 1998年度決算(案)ならびに1999年度予算(案)について
 5. 第4回コロンビア大学・ジャフィーコンファランスのお知らせ
 6. コロンビア大学 Mathematics of Finance コース留学へのジャフィー推薦について
 7. 1999年度会費納入のお願い
 8. 学会誌論文の募集
 9. 会員の随筆・ニュース
 10. 会員による新刊書の案内
 11. JIC99 (JAFEE International Conference) の報告
 12. 会則
- 別紙 会員募集の案内

1. 第13回ジャフィー冬季大会のお知らせ

第13回ジャフィー大会が下記の要領で行われます。

- (1) 日時: 1999年12月17日(金)~18日(土)
場所: 東京大学大学院数理科学研究科大講義室
詳細は、同封のプログラムを参照してください。
- (2) 懇親会
12月17日(金)午後6時から駒場エミナース(駒場東大前駅西口・徒歩5分)で懇親会を予定しております。会費は5,000円の予定です。同封のFAX申込書にて申込み下さい。
- (3) 理事会・評議員会
12月17日(金)午後12時10分から理事会・評議員会を開催します。関係者の方は、お集まり下さい。

(4) 大会参加費の徴収

95 年度 12 月の総会で決定されましたように、参加費を徴収することになりました。個人会員は 3,000 円、学生会員は 1,000 円、法人会員は 1 社につき 3 名までは無料ですが、それ以上は 1 名につき 3,000 円です、また、非会員は 5,000 円です。プロシーディング（大会紀要：発表論文をまとめたもの）の費用は、大会参加費に含まれていますので、参加者には無料で配布されます。ただし、法人会員には大会後一部無料で送付致します。大会に出席できない会員でプロシーディングを購入希望の方は、2,000 円（郵送料を含む）をさくら銀行国立（くにたち）支店、口座名ジャフィー、口座番号（普）6 8 3 7 6 1 5、もしくは郵便振替口座、口座名ジャフィー、口座番号 0 0 1 2 0 - 4 - 1 4 6 8 7 4 にお振込み下さい。

(5) 英文学会誌の頒布

英文学会誌が、大会当日、一部 1,500 円で頒布されます。会員には一部無料で送付いたします。大会に出席できない会員で本学会誌を購入希望の方は、1,800 円（郵送料を含む）をさくら銀行国立（くにたち）支店、口座名ジャフィー、口座番号（普）6 8 3 7 6 1 5、もしくは郵便振替口座、口座名ジャフィー、口座番号 0 0 1 2 0 - 4 - 1 4 6 8 7 4 にお振り込み下さい。また同封の申込用紙を FAX もしくは郵送下さい。

2 . 事務局の移動について

ジャフィー事務局が高橋研究室から佃研究室へ移動しております。これに伴い、事務局の連絡先が変更となっておりますのでご注意下さい。連絡先は次の通りです。なお、ファックスにて連絡される場合には、ジャフィー事務局宛と明記して下さい。また、電子メールを利用される場合には、新たにジャフィー事務局宛のメールアドレスを開設しましたので、今後はこちらをご利用下さい。

事務局：佃 良彦研究室

〒980-8576 宮城県仙台市川内 東北大学大学院経済学研究科

連絡先：TEL: 022-217-6302（直通） FAX: 022-217-6327（学部共通）

e-mail: jafee@econ.tohoku.ac.jp

3 . Asia-Pacific Financial Markets 誌特別号への論文投稿のお願い

ジャフィー 英文学会誌 Asia-Pacific Financial Markets では、GARCH Option Pricing（Mathematical Finance, 1995）等の論文で著名な Jin-Chuan Duan 教授を特別編集者としてお招きし、

SPECIAL ISSUE ON GARCH AND STOCHASTIC VOLATILITY MODELS IN FINANCE

の発行を企画しております。内容につきましては、GARCHモデルもしくはStochastic Volatilityモデルをテーマとするものであれば、理論的、実証的論文の双方を歓迎します。

会員皆様の投稿をお願いいたします。論文4部を以下にお送りください。すべての論文は審査されます。なお、締め切りは2000年4月1日です。

Professor Jin-Chuan Duan
Department of Finance
School of Business and Management
Hong Kong University of Science & Technology
Clear Water Bay, Kowloon
Hong Kong

ご質問がある場合には、Jin-Chuan Duan教授に直接連絡してください。メールアドレスは
jcduan@ust.hk
です。



4 . 1998 年度決算（案）ならびに 1999 年度予算（案）について

12 月 17 日に開催される通常総会で、1998 年度決算案と 1999 年度予算案が審議されます。本案は同日開催される評議員会で承認されてから通常総会に諮られます。

5. 第4回コロンビア大学・ジャフィーコンファランスのお知らせ

第4回 Columbia-JAFEE Conference on the Mathematics of Finance の講演者を募集しております。詳細につきましては

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-5-1 興銀第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 刈屋 武昭
にお問い合わせ下さい。

6. コロンビア大学 Mathematics of Finance コース留学へのジャフィー推薦について

コロンビア大学の数学部に設置された Mathematics of Finance コースに留学を希望される方で、ジャフィーからの推薦を希望される方は、履歴書と業績、実績等参考資料を添えて、以下宛までお送り下さい。語学等が若干低くてもフィナンシャル・エンジニアリングの素養、実績等がある場合考慮されるとのことです。

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-5-1 興銀第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 刈屋 武昭

7. 1999 年度会費納入のお願い

1999 年度の会費を未納の方は、至急下記の口座にお振込み下さい。なお、請求書、領収証が必要な方は事務局までその旨を郵送または FAX して下さい。関東地域の個人正会員は 10,000 円、それ以外の地域の個人正会員は 6,000 円です。なお、振り込みに当たっては所属先でなく氏名を先にインプットして下さい。

さくら銀行国立(くにたち)支店 口座名 ジャフィー (普) 6837615
もしくは

郵便振替口座 口座名 ジャフィー 口座番号 00120-4-146874
です。上記のさくら銀行国立支店の口座と郵便為替口座以外には、お振り込みになりませんよう、よろしく願いいたします。

8. 学会誌論文の募集

(1) 日本語の学会誌 ジャフィー・ジャーナル

今年度中に、日本語の学会誌ジャフィー・ジャーナル第3号が発行される予定です。つきましては、会員皆様からの投稿を英文誌同様に期待します。論文は未発表であることが望ましいが、大学紀要や社内誌等に発表したものを改訂したものでかまいません。既発表の論文を改訂したものについては、発表雑誌と年次ならびにその論文のコピーを提示して下さい。すべての論文は審査されます。論文の投稿先は次のとおりです。

〒186-8601 国立市中 2-1 一橋大学大学経済学部 高橋 一
Tel : 042-580-8788 (E.3416) e-mail : hajime@stat.hit-u.ac.jp

(2) 英語の学会誌 Asia-Pacific Financial Markets

Asia-Pacific Financial Markets (APFM) は、旧タイトル (Financial Engineering and the Japanese Markets、FEJM と略) から通算で第 6 巻に入り頁数を増やし、年当たり 4 号印刷にし、学会員への配布も開始しました。また、編集体制も 3 人編集者制 (刈屋、今野、斯波) に移行しました。

海外からの投稿は、刈屋前編集長の尽力で増加しておりますが、会員皆様からの投稿を期待します。奮って投稿ください。すべての論文は審査され、審査基準は、日本語の学会誌より高くなります。論文の投稿先は次のとおりです。

〒186-8601 東京都国立市中 2-1 一橋大学経済学部 斯波 恒正
Tel : 042-580-8786、e-mail : tshiba@stat.hit-u.ac.jp

9 . 会員の随筆・ニュース

社会人大学院新設のご紹介

一橋大学大学院国際企業戦略研究科金融戦略講座教授 三浦 良造

一橋大学大学院国際企業戦略研究科が来年 (2000年) 4月から授業を開始します。この場をお借りして、金融に関係する講座のご紹介をさせていただきます。現在設置審議会による審査を受けている過程にありますので、ここでご紹介することは審査に合格すれば実現するという条件付きの事柄であることをお断りしておきます。ご承知下さるようお願いいたします。

国際企業戦略研究科は、授業を来年4月から開始します。この研究科は2つの専攻からなります。法務・公共政策専攻と経営・金融専攻の2つです。経営・金融専攻は国際経営戦略分野と金融戦略分野に分かれます。国際経営戦略は昼間に英語で (授業開始は10月からです) 金融戦略は夜間に日本語で授業を行います (授業開始は4月からです。資料は英語のものがかなり多いと思いますので英語の力も重視します。また、講師が外国人である場合は英語で授業が行われます。)。募集する学生は、原則として、本格的実務経験者です。各分野、別々に学生募集を行います。学生定員は、経営・金融専攻で40名程度とお考えください。金融戦略に何名配分するかは正確には未定です。学生募集案内は、設置審議会の審査結果が出てすぐに出します。それは2000年1月初めのつもりでいます。

ここではジャフイー会員の方々のために、金融戦略分野の授業科目、教育研究方針、期待する学生像などについてご紹介させていただきます。この分野では、金融工学を教育研究すると共に、これを始めとする計量的方法論を用いて、企業金融 (コーポレート・ファイナンス)、財務戦略を中心とした教育研究を行います。金融機関からは、資産運用、リスク管理、金融商品開発等の業務に携わる人、あるいは携わりたい人を、そして商社・製造業・サービス業などの事業会社からは、財務戦略、資金調達等の財務的意思決定業務に携わる人を学生として受け入れたいと考えています。数

学的な力が強い人のみならず、数学の力は普通（つまり社会科学系学部で提供されるレベルの数学をマスターしている程度）であるが金融戦略に関して高度な問題意識をもっている人も同等に受け入れます。金融工学の方法論は数学を用いて記述されますので、数理に重点を置いた科目を設置しますが、同時に、実務に於ては数値的なレベルでの扱いになりますので、コンピュータ・ソフトウェアを用いた数値計算（価格、ヘッジ比率など）に習熟することにより、金融商品の扱い、金融戦略の実践が行いえるような科目の設置および授業内容の構成を行います。従いまして、本格的な実務経験に基づいた、金融戦略に関する高度な問題意識をもち、そして十分な準備が来ている、数学強力タイプと数学普通タイプの人が入学されるように期待しています。

授業科目は、ファイナンス、及び企業財務、統計的データ分析、ポートフォリオ選択、派生証券、リスク計測・管理、資産運用、取引・売買、証券市場、数学、等に関するものです。コンピュータ・ソフトウェア、データベースなどの設備を充実させるための努力もしています。授業科目と並んで重要なのは演習（ゼミ）です。これは学生募集の際に提出する研究計画書に記述された研究計画に沿って、学生が自ら選んだテーマに沿って学習・研究を進めます。ゼミと授業内容が密であり量も多いので、授業とゼミの予習・宿題にかかる時間は多いと思います。従いまして、夜だけしか勉強時間が与えられない人は、標準的に考えて毎夕1つの授業を履修するとして、修士の学位を得るために2年間かかるでしょう。また昼間から勉強できる人、つまり会社からその様に派遣されるような人は、時間的余裕があるので毎夕2つの授業を履修することも出来るでしょう。この場合は、特に優秀な人は2年を待たずに修了出来る可能性があります。

金融戦略講座の専任教官が神田一橋のキャンパスに研究室を持って教育研究を行いますので、授業時間外の指導も可能ですし、パソコンなどの設備と図書室も昼間から使えます。このように、夜間だけしか勉強できない人だけでなく、昼夜フルタイムで勉強できる人も十分に勉強できるように設定してあります。

本研究科は、7年ほど前から準備・検討・計画されてきましたが、いよいよ実現の運びとなりました。金融戦略の高度専門的職業人を育成するために、ジャフィー会員の方々の始めとする多くの方々のご支援をいただけるようお願い申し上げます。なお、一橋大学のホームページ

<http://www.hit-u.ac.jp>

にある、国際企業戦略研究科の案内もあわせてご覧ください。

10．会員による新刊書の案内

『経済学とファイナンスのための数学』

高橋 一著

新世社、10/25/99 刊

本書は題名からしても、そして新世社の新経済学ライブラリー・シリーズの〈別巻11〉であることからしても、経済学徒向けの経済数学が主な本に聞こえるかもしれない。しかし本書は、これから数理ファイナンスを学んで行こうとする者に絶好の数学的準備を与えている。重要な定理などの説明では、その直感的な意味合いを読者に伝えようとする工夫が随所に見られ、従って厳密な証明は

できる限り省かれている。著者自身が序文で述べているように、数学者が書いた数学の教科書とは異なり、数学を使う人の観点から書かれた本である。トピック的には、スチルチェス積分から絶対連続と有界変動の概念にまで触れており、how-to ものとは一線を画す本格派でもある。ページ数の関係か、確率論には触れてはいないため伊藤の公式等のファイナンスで必須の道具を扱っていないのは残念だが、非確率的な枠組みの中で金利モデルや株価モデルを幾つか例と共に説明している。

(一橋大学 斯波 恒正)

11 . JIC99(JAFEE International Conference)の報告

日本金融・証券計量・工学学会(ジャフィー)の第5回国際大会(1999年 JAFEE International Conference)が8月28日(土)・29日(日)に早稲田大学国際会議場(井深大記念ホール)にて開催され、研究報告会・総会・懇親会が滞りなく行われました。

11 1 . 総会・理事会・評議員会の報告

総会は大会2日目(8月29日)に開催されました。総会に先立ち、28日に理事会・評議員会が合同で開催され、総会に提出するための議案を審議しました。総会では次の案件が審議・報告されました。

審議案件

会則の一部変更について

会則第4条及び附則に関して審議され、以下のように変更されました。

4 . 個人正会員は、日本金融・証券計量・工学学会誌(和文会誌)の配布を無料で受ける。学生会員は有料とし、その価格を附則で定める。また個人正会員、学生会員は本学会の催す諸種の学術的会合に参加することができる。法人会員は、1口の場合個人正会員3名分、2口の場合5名分の特典を与えられる。英文会誌 Asia-Pacific Financial Markets については、個人正会員については無料とする。法人会員には1口あたり1部無料で配布される。本学会が定期・非定期に催す国際的学術会合については、個人正会員、学生会員、法人会員とも原則有料とし、その料金は予め個人正会員、学生会員、法人会員に通知され、会計報告によって会員の承認を得るものとする。

附則 1 . 英文会誌の会誌編集担当理事(エディター)の任期は5年とする。

2 . 学生会員の和文会誌は、東洋経済新報社からの購入価格とする。

報告案件

(1) 1999 年度役員人事

前回の会報でお知らせした 1999 年 7 月 1 日付けで発令された新規役員 (副会長・理事) について報告されました。

(2) 事務局の移転について

ジャフイー事務局が筑波大学高橋研究室から東北大学佃研究室へ移転したことが報告されました。

(3) 1998 年度決算と 1999 年度予算 (案) について

事務局移転のため、事務の引き継ぎが遅れている点をお詫びするとともに、1998 年度決算と 1999 年度予算 (案) については、できるだけ早く会員の皆様にお知らせする旨報告されました。

1 1 2 . 研究報告会

Freddy Delbaen 氏をはじめとする招待講演を含め、延べ 9 セッション、30 テーマの報告が行われました。協賛を頂きました日本興業銀行、第一勧業銀行、ニッセイ基礎研究所、農林中央金庫、東京金融先物取引所、東京クウォンツ研究所、東京三菱銀行、日経 QUICK 情報に感謝の意を表します。発表者名ならびに発表テーマは次の通りです。

8 月 28 日 (土)

Japanese Session I

- (J-1) Effective Portfolio Strategy through Consideration of Estimation Risk
Hiroyuki Kashima (IBJ-DL Financial Technology)
- (J-2) Boltzmann Model in Financial Technology
Yuji Uenohara (Toshiba), Ritsuo Yoshioka (Toshiba)

Japanese Session II

- (J-3) Valuing Corporate Debt: The Effect of Cross-Holdings
Teruyoshi Suzuki (NLI Research Institute)
- (J-4) A Markov Model for the Term Structure of Credit Risk Spread
Kimiaki Aonuma (Bank of Tokyo-Mitsubishi)
- (J-5) Volatility Smiles in the Interest Rate Option Market and the Non-normal Skewness and Kurtosis in Option-implied Distributions
Yuriko Ishida (IBJ-DL Financial Technology), Kyosui Oh (IBJ-DL Financial Technology)
- (J-6) Optimal Environmental Improvement Policy under Uncertainty
Motoo Tsujimura (Osaka University)

Financial Time Series Econometrics

- (1-1) Empirical Analysis on the Term Structure of Japanese Interest Rates – Centering on the Effects of Monetary Policy
Takayasu Ito (Kyodo News)
- (1-2) Statistical Method of Estimating JGB Volatility Hedge-Ratios Based on Multivariate GARCH Models
Akira Hirata (Daiwa Securities SB Capital Markets)
- (1-3) An EGARCH Model with Possible Asymmetric Error Distributions and its Applications to TOPIX
Yoshihiko Tsukuda (Tohoku University), Junji Shimada (Tohoku University)

- (1-4) The Return Behavior and Distribution of the Dollar/Yen Currency Market
Fumio Nakakubo (NLI Research Institute)

Guest Session I

- (GI-1) Gaussian Estimation and Forecasting of Multi-Factor Term Structure Models with an Application to the United Kingdom and Japan
K. Ben Nowman (The University of Kent)
- (GI-2) Class of Interest Rate Models under the HJM Framework
Carl Chiarella (University of Technology, Sydney), Oh Kang Kwon (University of Technology Sydney)
- (GI-3) Coherent Risk Measures on General Probability Spaces
Freddy Delbaen (ETH Zurich)

8月30日(日)

Stock Market Analysis

- (2-1) Practical Consideration of Dimensionality Reduction for Risk Control Method Using Principal Component Analysis
Noboru Nishiyama (Tokyo Institute of Technology)
- (2-2) The Stock Price and the Trading Volume of Financially Distressed Firms
Masaaki Yamada (Tokai International Securities), Jay R Rajasekera (International University of Japan)
- (2-3) On the Robustness of the Market Value of Equity as Risk Absorber in Cross-Sectional Regressions
Xavier Garza Gomez (Nagoya City University), Jiro Hodoshima (Nagoya City University), Michio Kunimura (Nagoya City University)
- (2-4) An Empirical Study of Testing PPP Hypothesis between Japan and the Six G7 Countries
Yoshihiko Tsukuda (Tohoku University), Tatsuyoshi Miyakoshi (Niigata University)

Derivative Pricing

- (2-5) Model Effects in the Pricing of Credit Spread Option
Koichi Miyazaki (Goldman Sachs), Tadashi Inoue (AXA Japan)
- (2-6) Quantile Hedging for Defaultable Securities in an Incomplete Market
Jun Sekine (Osaka University)
- (2-7) Minimal Relative Entropy Martingale Measures and their Applications to Option Pricing Theory
Yoshio Miyahara (Nagoya City University)
- (2-8) Pricing Mortgage-Backed Securities (MBS) - A Model Describing the Burnout Effect -
Takeaki Kariya (IBJ-DL Financial Technology), Masaaki Kobayashi (IBJ-DL Financial Technology)

Portfolio Management

- (2-9) The Optimal Log-Utility Asset Management Schemes and its Application to the U.S. Stock Market
Hiroshi Ishijima (Keio University), Hiroshi Shirakawa (Tokyo Institute of Technology)

- (2-10) Estimates of Beta in the Market Model, based on Rank Statistics, in Comparison with LSE
Ryozo Miura (Hitotsubashi University)
- (2-11) Experimental Studies of an International Portfolio Model using Integrated Optimization Approach
Hiroshi Konno (Tokyo Institute of Technology), Jing Li (Tokyo Institute of Technology)

Guest Session II

- (GII-1) The Harrison-Pliska Arbitrage Pricing Theorem under Transaction Costs
Yu M Kabanov(Université de Franche-Comté), Ch Stricker (Université de Franche-Comté)
- (GII-2) On the Log-Return Distribution of Trade Weighted Currency Indices
Simon Hurst (University of Technology Sydney), Eckard Platen (University of Technology Sydney)

Financial Technology

- (2-12) Note on Jarrow-Turnbull Model
Hiroshi Shirakawa (Tokyo Institute of Technology)
- (2-13) Lattice Calculation for Forward LIBOR Model
Tadashi Uratani (Hosei University), Makoto Utsunomiya (Bank of Tokyo-Mitsubishi)
- (2-14) Real Option Analysis of “Kanshi Kuiki” System
Hiroshi Yamaguchi (The Nippon Fire & Marine Insurance)
- (2-15) Real Estate Investment as a Real Options with Spatial Dependency
Yuichiro Kawaguchi (Meikai University)

1 2 . 日本金融・証券計量・工学学会（ジャフィー）会則

1. 本学会は、日本金融・証券計量・工学学会と称する。英語名は The Japanese Association of Financial Econometrics & Engineering とする。略称をジャフィー（英語名：JAFEE）とする。本学会の設立趣意は次のとおりである。
「設立趣意」日本金融・証券計量・工学学会（ジャフィー）は、広い意味での金融資産価格や実際の金融的意思決定に関わる実証的領域を研究対象とし、産学官にわたる多くのこの領域の研究・分析者が自由闊達な意見交換、情報交換、研究交流および研究発表するための学術的組織とする。特に、その設立の基本的な狙いは、フィナンシャル・エンジニアリング、インベストメント・テクノロジー、クウォンツ、理財工学、ポートフォリオ計量分析、ALM、アセット・アロケーション、派生証券分析、ファンダメンタルズ分析等の領域に関係する産学官の研究・分析者が、それぞれの立場から個人ベースでリベラルな相互交流できる場を形成し、それを通じてこの領域を学術的領域として一層発展させ、国際的水準に高めることにある。
組織は個人会員が基本であり、参加資格はこの領域に興味を持ち、設立趣意に賛同する者とする。運営組織は、リベラルかつ民主的なものとする。
2. 本学会は、設立趣意の目的を達成するために、次の事業を行う。
(1) 研究発表会、その他学術的会合の開催。

- (2) 会員の研究成果の公刊。
(3) その他本学会の目的を達成するための適切な事業
3. 本学会は、個人会員と法人会員からなる。参加資格は、本学会の設立趣旨に賛同するものとする。個人会員は、正会員、学生会員および名誉会員からなる。法人会員は口数で加入し、1 法人 1 部局（機関）2 口までとする。
 4. 個人正会員は、日本金融・証券計量・工学学会誌（和文会誌）の配布を無料で受ける。学生会員は有料とし、その価格を附則で定める。また個人正会員、学生会員は本学会の催す諸種の学術的会合に参加することができる。法人会員は、1 口の場合個人正会員 3 名分、2 口の場合個人正会員 5 名分の特典を与えられる。英文会誌 Asia-Pacific Financial Markets については、個人正会員については無料とする。法人会員には 1 口あたり 1 部無料で配布される。本学会が定期・非定期に催す国際的学術的会合については、個人正会員、学生会員、法人会員とも原則有料とし、その料金は予め個人正会員、学生会員、法人会員に通知され、会計報告によって会員の承認を得るものとする。
 5. 学生会員および法人会員は、選挙権および被選挙権をもたない。
 6. 入会にあたっては、入会金およびその年度の会費を納めなければならない。
 7. 会員は年会費として、個人正会員の場合、関東地域（東京都、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県、埼玉県、山梨県、神奈川県）に連絡先住所がある会員は、10,000 円、その他の地域に連絡先住所がある会員は、6,000 円とする。学生会員の年会費は 2,500 円とする。法人会員の年会費は、1 口 70,000 円、2 口は 100,000 円とする。入会金は、個人正会員は 2,000 円、学生会員は 500 円、法人会員は 1 口 10,000 円とする。会費を 3 年以上滞納したものは、退会したものとみなすことがある。
 8. 正会員であって、本学会もしくは本学界に大きな貢献のあったものは、総会の承認を得て名誉会員とすることができる。その細則は別に定める。
 9. 本会に次の役員をおく。役員は個人正会員に限る。
会長 1 名、副会長 2 名以内、評議員 20 名、理事若干名、監事 2 名
評議員は原則として学界 10 名、産業界および官界 10 名とし、1 法人（機関）1 部局あたり 1 名までとする。
 10. 評議員は、正会員の中から互選する。評議員は、評議員会を組織して会務を審議する。
 11. 理事は、会長が推薦し、総会が承認する。ただし、会誌編集理事（エディター）は評議員会の承認を得て総会が選出する。理事は会長、副会長とともに第 2 条に規定する会務を執行する。理事は次の会務の分担をする。
庶務、会計、渉外、広報、会誌編集、大会開催、研究報告会のプログラム編成、その他評議員会で必要と議決された事務。
 12. 会長は選挙によって定める。会長は、本学会を代表し、評議員会の議長となる。会長は第 10 条の規定にかかわらず評議員となる。会長は(1)評議員会の推薦した候補者、(2)20 名以上の個人正会員の推薦を受けた候補者、もしくは(3)その他の個人正会員、の中から選出する。(1)(2)の候補者につ

いては、本人の同意を必要とする。(1)(2)の候補者については経歴・業績等の個人情報公開するものとする。

13. 副会長は、会長が推薦し、総会が承認する。副会長は、評議員会に出席し、会長を補佐する。
 14. 監事は、評議員会が会長、副会長、理事以外の正会員から選出する。監事は会計監査を行う。
 15. 本学会の役員の任期は、原則 2 年とする。ただし、連続する任期の全期間は会長は 4 年を超えないものとする。なお、英文会誌編集担当理事（エディター）の任期は附則で定める。
 16. 評議員会は、評議員会議長が必要と認めたときに招集する。また、評議員の 1/2 以上が評議員会の開催を評議員会議長にこれを要求したときは、議長はこれを招集しなければならない。
 17. 総会は会長が招集する。通常総会は、年 1 回開く。評議員会が必要と認めたときは、臨時総会を開くことができる。正会員の 1/4 以上が、署名によって臨時総会の開催を要求したときは、会長はこれを開催しなければならない。
 18. 総会の議決は、出席者の過半数による。
 19. 次の事項は、通常総会に提出して承認を受けなければならない。
 - (1) 事業計画および収支予算
 - (2) 事業報告および収支決算
 - (3) 会則に定められた承認事項や決定事項
 - (4) その他評議員会で総会提出が議決された事項
 20. 本学会は、会務に関する各種の委員会をおくことができる。各種委員会の運営は、別に定める規定による。
 21. 本学会の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、3 月 31 日に終わる。
 22. 本学会の運営に関する細則は別に定める。
 23. 本会則の変更は、評議員会の議決を経て、総会が決定する。
- 附則
1. 英文会誌編集担当理事（エディター）の任期は 5 年とする。
 2. 学生会員の和文会誌は、東洋経済新報社からの購入価格とする。